

事例No. 612 ベッドまわりでの転倒 B病院 病棟診療科目： 外科・皮膚科・呼吸器・肺外科・小児

発生時間： 12 : 30 入院 20 日目

患者属性および状態

年齢： 82 歳 性別： 男 ・ **女** 患者タイプ： C

認知・理解力の問題： 1. なし **2** あり (痴呆 ・ 不穏行動 ・ **理解力低下**)

運動機能に関する問題： 1. なし 2. 麻痺 3. しびれ **4** 筋力低下

薬剤使用： 1. なし 2. あり (鎮痛剤・睡眠剤・**向精神薬**・降圧剤・利尿剤・血糖降下剤・抗パーキンソン剤)

ナースコール： 1. 適切に利用できる ・ **2** 適切に利用できない

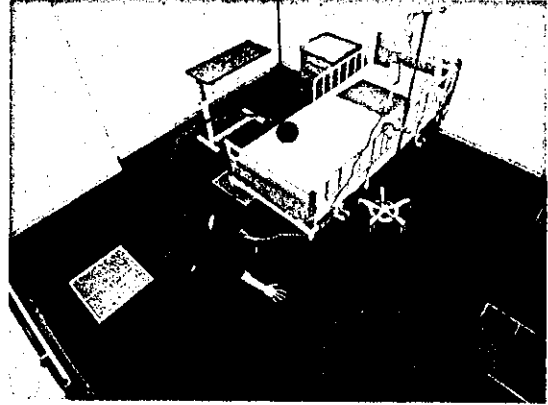
治療目的の装着物： 1. なし
2 点滴関係 (部位：)
 3. モニター (ECG・SpO2・その他)
 4. ドレーン (部位： 頭部・胸部・腹部・尿・その他)
 5. その他 ()

過去の転倒・転落経験： 1. なし ・ **2** あり (最近の発生： 1 日前)

転倒・転落をしてしまった場合のリスク： 1. なし 2. 骨密度が低い
 3. 出血傾向 (服薬による影響含む) 4. その他

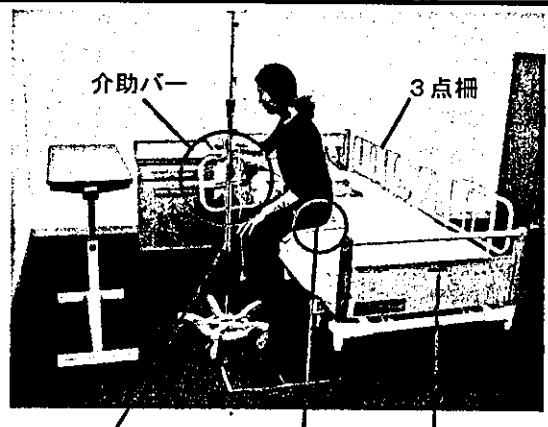
発生状況

- ・ ベッド端座位でOBTで食事中、トイレに行こうとして一人で立ち上がり歩こうとし、点滴スタンドを持ち忘れふらつき、向かいのベッドサイドに転倒。
- ・ 点滴スタンドは反対側のベッドサイドにあった。
- ・ 離床センサーを使用していたが、食事中のためOFFにしていた。
- ・ トイレに行く際はNs. コールするよう説明していた。
- ・ 周辺には患者の邪魔になるものはおいていなかった。
- ・ Ns. の目が届くようステーション内で食事をするよう勧めたが拒否。カーテンも本人の希望で閉めていた。



改善案

- ・ ベッド端座位時は、離床センサーが使用できないため、座面センサーを用いる。
- ・ 3点柵とし、ベッドの降り口を確保する。
- ・ 点滴スタンドはベッドの降り口側に設置する。
- ・ 点滴の固定位置、方法、チューブ類を再検討する。
- ・ ベッドを低くし、端座位の姿勢で足底が床面にきちんと着くようにする。
- ・ 介助バーなどを設置し、姿勢保持の手がかりとする (認知・理解力に問題がある患者においては、介助バーは一人で操作できないものを用いる)



点滴スタンドはベッドの降り口側に置く

座面センサー

ベッドを低くする

事例No. 206 ベッドまわりでの転倒 A病院 病棟診療科目：外科・耳鼻科・神経内科

発生時間： 17 : 05 入院 57 日目

患者属性および状態

年齢： 73 歳 性別： 男 女 患者タイプ： B-II

認知・理解力の問題： 1. なし 2. あり (痴呆・不穏行動・ 理解力低下)

運動機能に関する問題： 1. なし 2. 麻痺 3. しびれ 4. 筋力低下

薬剤使用： 1. なし 2. あり (鎮痛剤・睡眠剤・向精神薬・降圧剤・利尿剤・血糖降下剤・ 抗パーキンソン剤)

ナースコール： 1. 適切に利用できる 2. 適切に利用できない

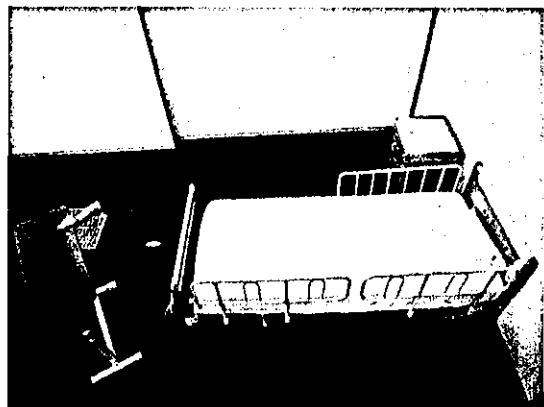
治療目的の装着物： 1. なし
 2. 点滴関係 (部位：)
 3. モニター (ECG・SpO2・その他)
 4. ドレーン (部位： 頭部・胸部・腹部・尿・その他)
 5. その他 ()

過去の転倒・転落経験： 1. なし 2. あり (最近の発生： 日 日前)

転倒・転落をしてしまった場合のリスク： 1. なし 2. 骨密度が低い
 3. 出血傾向 (服薬による影響含む) 4. その他

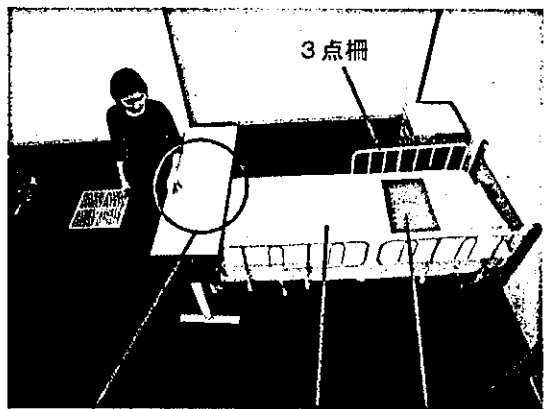
発生状況

- 一人でトイレに行こうとし、オーバーベッドテーブルに手をかけ転倒した。
- ベッドは4点柵としていたが、発見時ひとつがはずれていた。
- ベッドは一番低くしていた。
- 離床センサーを設置し、Ns.ステーションに近い病室だった。



改善案

- 3点柵とし、ベッドの降り口を確保する。
- 離床センサーによって患者の起きあがりを察知し、その後の患者の動きは看護師の付添・介助のもと行う。
- 手を着いても動いてしまわないよう、ロック機能付きのオーバーベッドテーブルとする。



ロック機能付き
オーバーベッド
テーブル

3点柵
離床センサー
ベッドを低くする

事例No. 207	ベッドまわりでの転倒	A病院	病棟診療科目：外科
-----------	------------	-----	-----------

発生時間： 0 : 00 入院 12 日目

患者属性および状態

年齢： 86 歳 性別： (男) ・ 女 患者タイプ： B-I

認知・理解力の問題： 1. なし (2) あり。(痴呆・不穏行動・理解力低下)

運動機能に関する問題： 1. なし 2. 麻痺 3. しびれ (4) 筋力低下

薬剤使用： 1. なし 2. あり (鎮痛剤 (睡眠剤) ・向精神薬・降圧剤・利尿剤・血糖降下剤・抗パーキンソン剤)

ナースコール： 1. 適切に利用できる ・ (2) 適切に利用できない

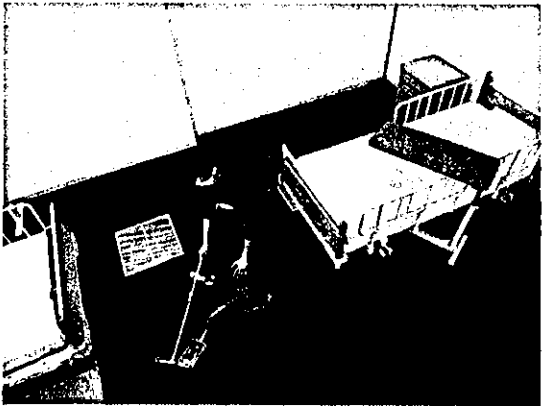
治療目的の装着物： 1. なし
 (2) 点滴関係 (部位：)
 3. モニター (ECG・SpO2・その他)
 4. ドレーン (部位：頭部・胸部・腹部・尿・その他)
 5. その他 ()

過去の転倒・転落経験： (1) なし ・ 2. あり (最近の発生： 日前)

転倒・転落をしてしまった場合のリスク： 1. なし (2) 骨密度が低い
 3. 出血傾向 (服薬による影響含む) 4. その他

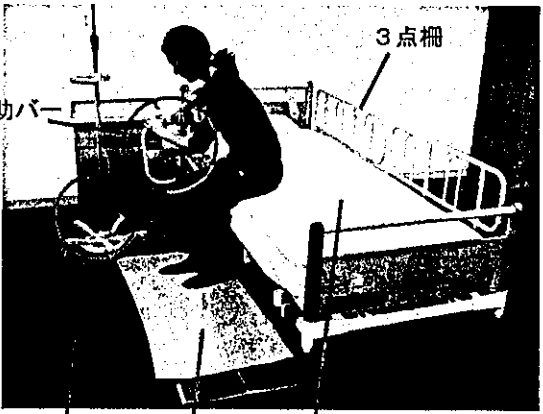
発生状況

- 一人でトイレに行こうとし、点滴スタンドに躓いて向かい側のベッドに向かって転倒した。
- 説明してもナースコールを押さずに行動しがちで、何でも自分でやろうとする傾向がある



改善案

- ベッドを3点柵とし、降り口に床敷きセンサーを設置し、患者がベッドから離れようとするのを察知する。
- ベッドを低くし、端座位の姿勢で足底が床面にきちんと着くようにする。
- 介助バーなどを設置し、姿勢保持の手がかりとする (認知・理解力に問題がある患者においては、介助バーは一人で操作できないものを用いる)
- 床材との関係や患者の使い勝手などを考慮し、適切な点滴スタンドを選択する。



適切な点滴スタンドの選択

ベッドを低くする

床敷きセンサー

事例No. 308 | ベッドまわりでの転倒 | A病院 | 病棟診療科目：外科・耳鼻科・神経内科

発生時間： 15 : 00 | 入院 5 日目

患者属性および状態

年齢： 55 歳 性別： 男 ・ **女** 患者タイプ： A-II

認知・理解力の問題： **1**. なし 2. あり (痴呆 ・ 不穏行動 ・ 理解力低下)

運動機能に関する問題： 1. なし **2**. 麻痺 3. しびれ 4. 筋力低下

薬剤使用： 1. なし 2. あり (**鎮痛剤** ・ 睡眠剤 ・ 向精神薬 ・ 降圧剤 ・ 利尿剤 ・ 血糖降下剤 ・ 抗パーキンソン剤)

ナースコール： **1**. 適切に利用できる ・ 2. 適切に利用できない

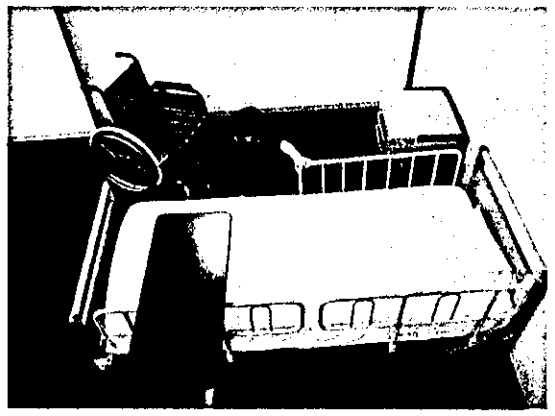
治療目的の装着物： **1**. なし
2. 点滴関係 (部位：)
3. モニター (ECG ・ SpO2 ・ その他)
4. ドレーン (部位： 頭部 ・ 胸部 ・ 腹部 ・ 尿 ・ その他)
5. その他 ()

過去の転倒・転落経験： 1. なし ・ **2**. あり (最近の発生： 日前)

転倒・転落をしてしまった場合のリスク： **1**. なし 2. 骨密度が低い
3. 出血傾向 (服薬による影響含む) 4. その他

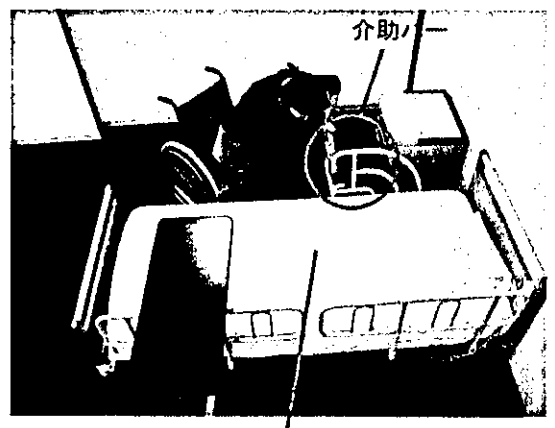
発生状況

- ・ 下肢麻痺のある患者。
- ・ 車いすからベッドに一人で戻ろうとして、車いすとベッドの間に落ちた。
- ・ 本人から「落ちた」とのNs. コールにて訪室。



改善案

- ・ ベッドの高さを車いすの座面と同じ高さとし、移乗しやすいようにする。
- ・ 介助バーを設置し、移乗の手がかりとする。



ベッドを車いすの座面と同じ高さとする

事例No. 712 | ベッドまわりでの転倒 | B病院 | 病棟診療科目：呼吸器・肺外科・ペインクリニック科

発生時間： 16 : 30 入院 24 日目

患者属性および状態

年齢： 64 歳 性別： (男) ・ 女 患者タイプ： B-II

認知・理解力の問題： 1. なし (2) . あり (痴呆 ・ 不穏行動 ・ 理解力低下)

運動機能に関する問題： 1. なし (2) 麻痺 (3) . しびれ (4) . 筋力低下

薬剤使用： 1 . なし 2 . あり (鎮痛剤・睡眠剤・向精神薬・降圧剤・利尿剤・血糖降下剤・抗パーキンソン剤)

ナースコール： 1 . 適切に利用できる ・ (2) . 適切に利用できない

治療目的の装着物： (1) . なし

2 . 点滴関係 (部位：)

3 . モニター (ECG・SpO2・その他)

4 . ドレーン (部位：頭部・胸部・腹部・尿・その他)

5 . その他 ()

過去の転倒・転落経験： (1) . なし ・ 2 . あり (最近の発生： 日前)

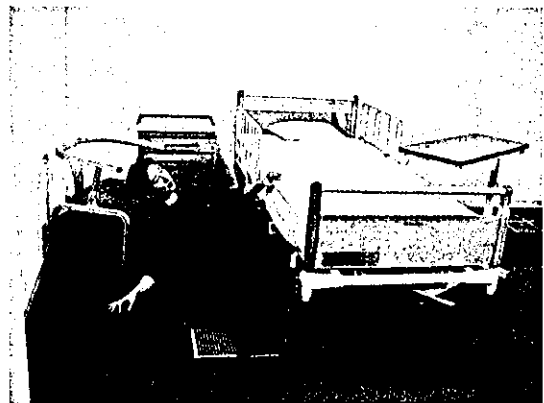
転倒・転落をしてしまった場合のリスク： 1 . なし 2 . 骨密度が低い

3 . 出血傾向 (服薬による影響含む)

4 . その他

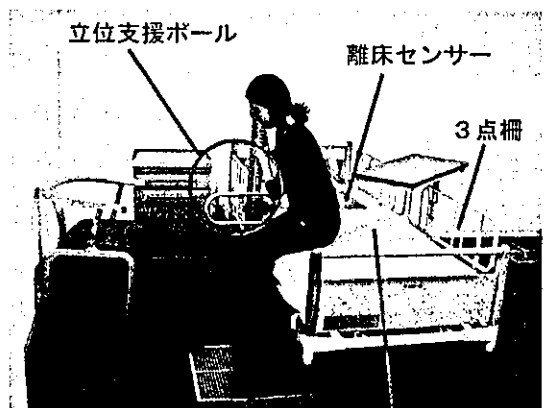
発生状況

- ・ トイレに行こうとしてベッドサイドに立ち上がった
ら、ふらついて尻餅をついた。
- ・ そばに置いてあった折りたたみ椅子で後頭部を打撲
した。
- ・ 同室患者が物音で気づきNs. コールした。



改善案

- ・ 離床センサーによって患者の起きあがりを察知し、そ
の後の患者の動きは看護師の付添・介助のもと行う。
- ・ 3点柵とし、ベッドの降り口を確保する。
- ・ ベッドの降り口に立位支援ポールを設置し、介助の手
がかりとする。
- ・ ベッドを低くし、端座位の姿勢で足底が床面にきちん
と着くようにする。



ベッドを低くする

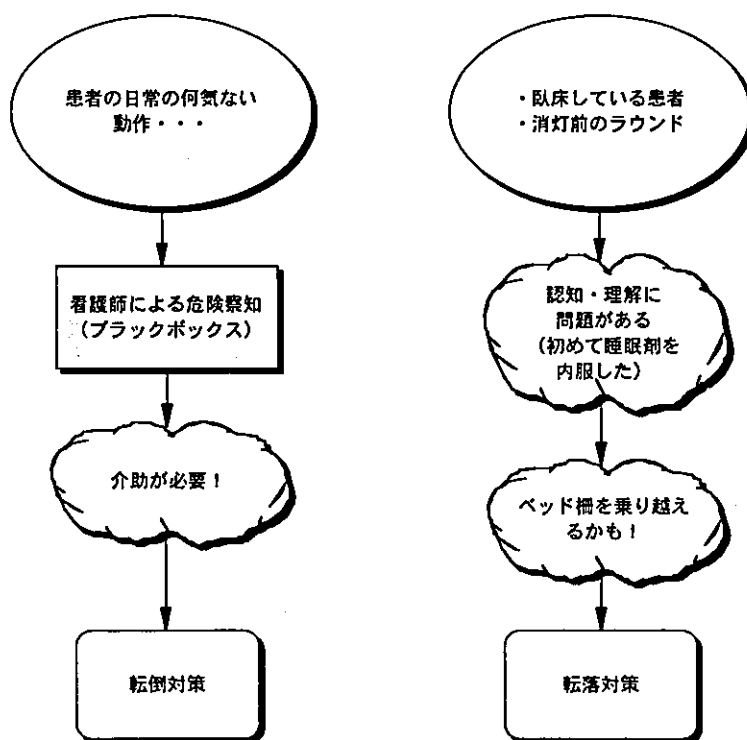
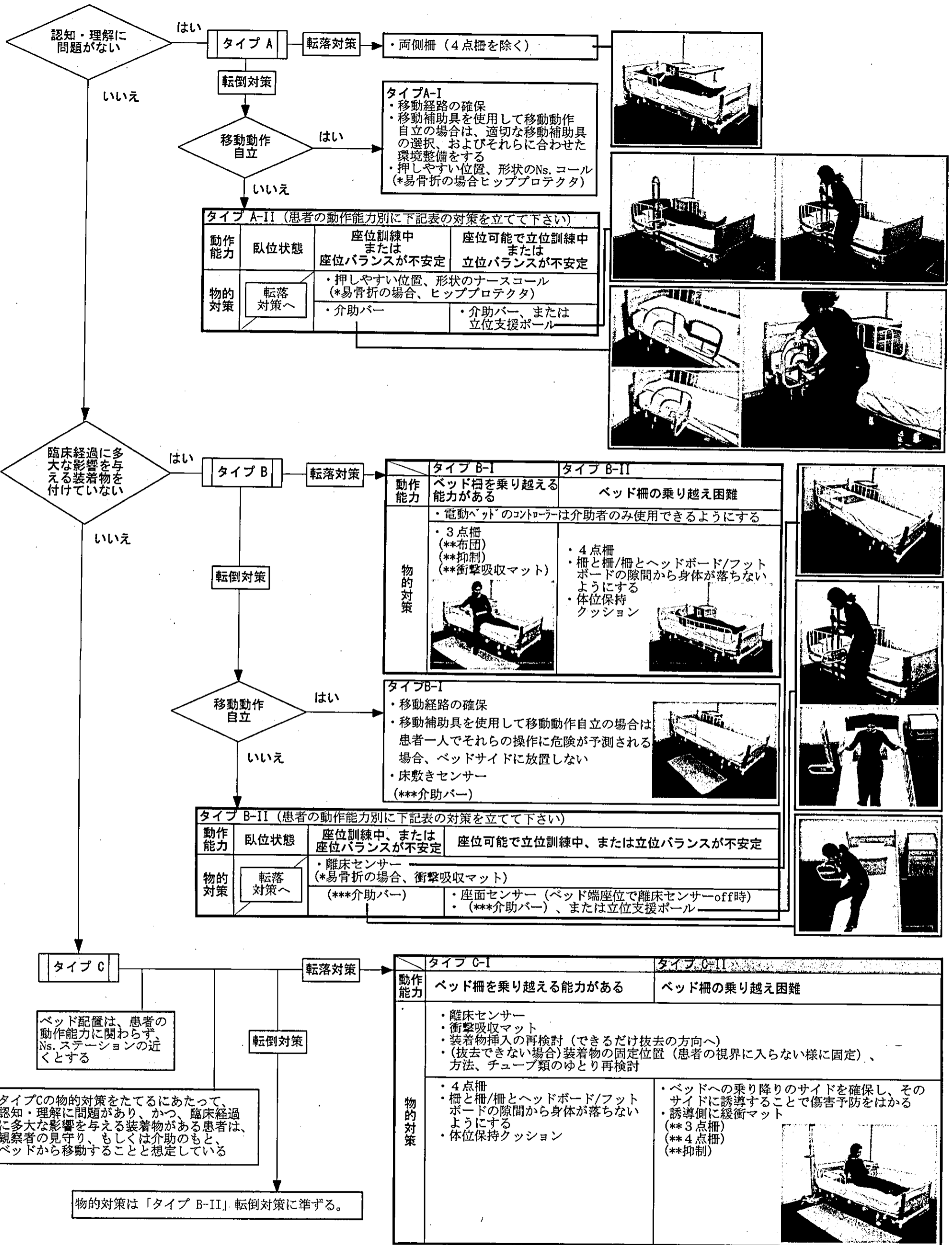


図 看護師の転倒・転落対策の業務的思考過程

■ベッドまわりでの転倒・転落への対策表【簡易版】（写真ではセンサー類は便宜上、青いシートで表している）



備考

- ・「ベッドを低くする」および「点滴スタンドを設置する場合は、患者がベッドを乗り降りする側に設置する」は、すべてに共通の対策とする。
- ・離床センサーが設置できない場合は、ベッド柵タッチセンサーもありうる。
- ・患者の状態によって、離床センサーと他のセンサーを併用する。
- ・(*で始まる表記の物的対策 「タイプA-I」「タイプA-II」「タイプB-II」のヒッププロテクタ・衝撃吸収マットは、易骨折の場合用いる。
- ・(**で始まる表記の物的対策 「タイプB-II」の布団・抑制・衝撃吸収マット、および「タイプC」の3点柵・4点柵・抑制は、患者の状態に応じて適宜施す。
- ・(***)で始まる表記の物的対策 「タイプB-II」の介助バーは、患者が一人で操作できないものを用いる。

事例一対策対応表【ベッドからの転落】1/3
表内コンテンツ表記の対策は実施していた対策、色を塗ってある対策はその事例への考えられる物的対策、青字の対策はその事例への今後の対策として看護師があげた対策を表す。

No.	ケースNo.	病室名	発生場所	発生時間	患者タイプ	行為	タイム			その他対策	基本設定	看護師が調査後に記入した対策				
							タイムA-1	タイムB-1	タイムB-11			物的対策	人的対策			
1	701	NTT	ベッドサイド	2:00	B-1	報告 ベッドから降りようとして転落 トイレットに行きたくてNs.コイルを押しつけたが、根本から抜け落ちており睡も来ないで自分でベッドから降りようとして転落。患者自身の助けを呼ぶようにして転落。Ns.コイルはベッド下に絡ませていたが、自分でベッド下柵を降ろした時抜け落ちたと思われ	タイムA-1 ・両側柵(4点柵を除く)	タイムB-1 ・電動ベッドのコントローラーは介助者のみ使用できるようにする ■ベッド下柵 ■3点柵 ■(布団) ■(抑制)	タイムB-11 ・電動ベッドのコントローラーは介助者のみ使用できるようにする ■ベッド下柵 ■4点柵 ■柵と柵の隙間解消 ■柵とヘッドボード/フットボード間の隙間解消 ■体位保持クッション	タイムC-1 ■離床センサー ■ベッド配置 ■Ns.コイルの近くとする ■ベッド下柵 ■4点柵 ■柵と柵の隙間解消 ■柵とヘッドボード/フットボード間の隙間解消 ■(抑制)	タイムC-11 ■離床センサー ■Ns.コイルの近くとする ■ベッド下柵 ■4点柵 ■柵と柵の隙間解消 ■柵とヘッドボード/フットボード間の隙間解消 ■(抑制)	柵を下げたことを音などで知らせるNs.コイル/Ns.コイル	■ベッド柵をともなうギヤックツツア機能 ■床材 ■適度な弾力性	■Ns.コイルの位置確認/Ns.コイルを正しい位置に変更	柵の調整 ■ベッドの高さを確認	柵の調整 ■ベッドの高さを確認
2	703	NTT	ベッドから降りようとして転落 柵を押しつけている様子を見	12:40	B-1	報告 柵を押しつけている様子を見	タイムA-1 ・両側柵(4点柵を除く)	タイムB-1 ・電動ベッドのコントローラーは介助者のみ使用できるようにする ■ベッド下柵 ■3点柵 ■(布団) ■(抑制)	タイムB-11 ・電動ベッドのコントローラーは介助者のみ使用できるようにする ■ベッド下柵 ■4点柵 ■柵と柵の隙間解消 ■柵とヘッドボード/フットボード間の隙間解消 ■体位保持クッション	タイムC-1 ■離床センサー ■ベッド配置 ■Ns.コイルの近くとする ■ベッド下柵 ■4点柵 ■柵と柵の隙間解消 ■柵とヘッドボード/フットボード間の隙間解消 ■(抑制)	タイムC-11 ■離床センサー ■Ns.コイルの近くとする ■ベッド下柵 ■4点柵 ■柵と柵の隙間解消 ■柵とヘッドボード/フットボード間の隙間解消 ■(抑制)	床敷きセンサー	■ベッド柵をともなうギヤックツツア機能 ■床材 ■適度な弾力性	柵の調整 ■ベッドの高さを確認	柵の調整 ■ベッドの高さを確認	
3	611	NTT	ベッドから降りようとして転落 柵を押しつけている様子を見	2:40	C-1	報告 柵を押しつけている様子を見	タイムA-1 ・両側柵(4点柵を除く)	タイムB-1 ・電動ベッドのコントローラーは介助者のみ使用できるようにする ■ベッド下柵 ■3点柵 ■(布団) ■(抑制)	タイムB-11 ・電動ベッドのコントローラーは介助者のみ使用できるようにする ■ベッド下柵 ■4点柵 ■柵と柵の隙間解消 ■柵とヘッドボード/フットボード間の隙間解消 ■体位保持クッション	タイムC-1 ■離床センサー ■ベッド配置 ■Ns.コイルの近くとする ■ベッド下柵 ■4点柵 ■柵と柵の隙間解消 ■柵とヘッドボード/フットボード間の隙間解消 ■(抑制)	タイムC-11 ■離床センサー ■Ns.コイルの近くとする ■ベッド下柵 ■4点柵 ■柵と柵の隙間解消 ■柵とヘッドボード/フットボード間の隙間解消 ■(抑制)	床敷きセンサー	■ベッド柵をともなうギヤックツツア機能 ■床材 ■適度な弾力性	柵の調整 ■ベッドの高さを確認	柵の調整 ■ベッドの高さを確認	
4	709	NTT	ベッドから降りようとして転落 柵を押しつけている様子を見	1:30	C-1	報告 柵を押しつけている様子を見	タイムA-1 ・両側柵(4点柵を除く)	タイムB-1 ・電動ベッドのコントローラーは介助者のみ使用できるようにする ■ベッド下柵 ■3点柵 ■(布団) ■(抑制)	タイムB-11 ・電動ベッドのコントローラーは介助者のみ使用できるようにする ■ベッド下柵 ■4点柵 ■柵と柵の隙間解消 ■柵とヘッドボード/フットボード間の隙間解消 ■体位保持クッション	タイムC-1 ■離床センサー ■ベッド配置 ■Ns.コイルの近くとする ■ベッド下柵 ■4点柵 ■柵と柵の隙間解消 ■柵とヘッドボード/フットボード間の隙間解消 ■(抑制)	タイムC-11 ■離床センサー ■Ns.コイルの近くとする ■ベッド下柵 ■4点柵 ■柵と柵の隙間解消 ■柵とヘッドボード/フットボード間の隙間解消 ■(抑制)	床敷きセンサー	■ベッド柵をともなうギヤックツツア機能 ■床材 ■適度な弾力性	柵の調整 ■ベッドの高さを確認	柵の調整 ■ベッドの高さを確認	
5	401	武蔵野	柵を乗り越え転落 同室患者のNs.コイルに倒れ込むようになり上半身を乗せている患者を発見。エアマットを使用しておろし、マットから降ろした。寝返りはあまりできなかったため、4点柵で様子を見ていた。ベッド下柵は、体位保持ができておらず、柵を乗り越え転落した様子	21:50	B-11	報告 柵を乗り越え転落 同室患者のNs.コイルに倒れ込むようになり上半身を乗せている患者を発見。エアマットを使用しておろし、マットから降ろした。寝返りはあまりできなかったため、4点柵で様子を見ていた。ベッド下柵は、体位保持ができておらず、柵を乗り越え転落した様子	タイムA-1 ・両側柵(4点柵を除く)	タイムB-1 ・電動ベッドのコントローラーは介助者のみ使用できるようにする ■ベッド下柵 ■3点柵 ■(布団) ■(抑制)	タイムB-11 ・電動ベッドのコントローラーは介助者のみ使用できるようにする ■ベッド下柵 ■4点柵 ■柵と柵の隙間解消 ■柵とヘッドボード/フットボード間の隙間解消 ■体位保持クッション	タイムC-1 ■離床センサー ■ベッド配置 ■Ns.コイルの近くとする ■ベッド下柵 ■4点柵 ■柵と柵の隙間解消 ■柵とヘッドボード/フットボード間の隙間解消 ■(抑制)	タイムC-11 ■離床センサー ■Ns.コイルの近くとする ■ベッド下柵 ■4点柵 ■柵と柵の隙間解消 ■柵とヘッドボード/フットボード間の隙間解消 ■(抑制)	床敷きセンサー	■ベッド柵をともなうギヤックツツア機能 ■床材 ■適度な弾力性	柵の調整 ■ベッドの高さを確認	柵の調整 ■ベッドの高さを確認	
6	201	武蔵野	柵を乗り越え転落 同室患者のNs.コイルに倒れ込むようになり上半身を乗せている患者を発見。エアマットを使用しておろし、マットから降ろした。寝返りはあまりできなかったため、4点柵で様子を見ていた。ベッド下柵は、体位保持ができておらず、柵を乗り越え転落した様子	11:10	C-1	報告 柵を乗り越え転落 同室患者のNs.コイルに倒れ込むようになり上半身を乗せている患者を発見。エアマットを使用しておろし、マットから降ろした。寝返りはあまりできなかったため、4点柵で様子を見ていた。ベッド下柵は、体位保持ができておらず、柵を乗り越え転落した様子	タイムA-1 ・両側柵(4点柵を除く)	タイムB-1 ・電動ベッドのコントローラーは介助者のみ使用できるようにする ■ベッド下柵 ■3点柵 ■(布団) ■(抑制)	タイムB-11 ・電動ベッドのコントローラーは介助者のみ使用できるようにする ■ベッド下柵 ■4点柵 ■柵と柵の隙間解消 ■柵とヘッドボード/フットボード間の隙間解消 ■体位保持クッション	タイムC-1 ■離床センサー ■ベッド配置 ■Ns.コイルの近くとする ■ベッド下柵 ■4点柵 ■柵と柵の隙間解消 ■柵とヘッドボード/フットボード間の隙間解消 ■(抑制)	タイムC-11 ■離床センサー ■Ns.コイルの近くとする ■ベッド下柵 ■4点柵 ■柵と柵の隙間解消 ■柵とヘッドボード/フットボード間の隙間解消 ■(抑制)	床敷きセンサー	■ベッド柵をともなうギヤックツツア機能 ■床材 ■適度な弾力性	柵の調整 ■ベッドの高さを確認	柵の調整 ■ベッドの高さを確認	

事例一対応表【ベッドからの転落】 2/3

表内ゴシック体表記の対策は実施していた対策、色を塗ってある対策はその事例への今後の対策、青字の対策はその事例への今後の対策を表す。

No.	ケース No.	病院名	発生場所	発生時間	患者タイプ	タイプ A-I	タイプ B-I	タイプ B-II	タイプ B-O-I	その他対策	基本設定	看護師が調査票に記入した対策
7	307	武蔵野	ベッド	5:00	B-I	<ul style="list-style-type: none"> ベッド幅を低くする 両側柵 (4点柵を除く) 	<ul style="list-style-type: none"> 電動ベッドのコントロールローラーは介助者のみ使用できるようにする ベッド柵 3点柵 (*布団) (*抑制) 4点柵 柵と柵の隙間解消 フットボード間の隙間解消 体位保持クッション 	<ul style="list-style-type: none"> 柵と柵の隙間解消 柵とヘッドボード/フットボード間の隙間解消 体位保持クッション 	<ul style="list-style-type: none"> 柵と柵の隙間解消 柵とヘッドボード/フットボード間の隙間解消 体位保持クッション 	<ul style="list-style-type: none"> 柵をともなうギャランジアップ機能 床材 適度な弾力性 ベッド柵 柵の仕様 (マットレスから柵上端までの適切な高さ/はずれにくい) 	<ul style="list-style-type: none"> 障床センサーの確実な設置 ハンコ/衝撃吸収マット 	
7	504	NTT	ベッド	5:50	B-I	<ul style="list-style-type: none"> ベッド幅を低くする 両側柵 (4点柵を除く) 	<ul style="list-style-type: none"> 電動ベッドのコントロールローラーは介助者のみ使用できるようにする ベッド柵 3点柵 (*布団) (*抑制) 4点柵 柵と柵の隙間解消 フットボード間の隙間解消 体位保持クッション 	<ul style="list-style-type: none"> 柵と柵の隙間解消 柵とヘッドボード/フットボード間の隙間解消 体位保持クッション 	<ul style="list-style-type: none"> 柵をともなうギャランジアップ機能 床材 適度な弾力性 ベッド柵 柵の仕様 (マットレスから柵上端までの適切な高さ/はずれにくい) 	<ul style="list-style-type: none"> 衝撃吸収マット 		
8	503	NTT	ベッド	6:30	A	<ul style="list-style-type: none"> ベッド幅を低くする 両側柵 (4点柵を除く) 	<ul style="list-style-type: none"> 電動ベッドのコントロールローラーは介助者のみ使用できるようにする ベッド柵 3点柵 (*布団) (*抑制) 4点柵 柵と柵の隙間解消 フットボード間の隙間解消 体位保持クッション 	<ul style="list-style-type: none"> 柵と柵の隙間解消 柵とヘッドボード/フットボード間の隙間解消 体位保持クッション 	<ul style="list-style-type: none"> 柵をともなうギャランジアップ機能 床材 適度な弾力性 ベッド柵 柵の仕様 (マットレスから柵上端までの適切な高さ/はずれにくい) 	<ul style="list-style-type: none"> 障床センサー 		
9	706	NTT	ベッド	3:00	B-I	<ul style="list-style-type: none"> ベッド幅を低くする 両側柵 (4点柵を除く) 	<ul style="list-style-type: none"> 電動ベッドのコントロールローラーは介助者のみ使用できるようにする ベッド柵 3点柵 (*布団) (*抑制) 4点柵 柵と柵の隙間解消 フットボード間の隙間解消 体位保持クッション 	<ul style="list-style-type: none"> 柵と柵の隙間解消 柵とヘッドボード/フットボード間の隙間解消 体位保持クッション 	<ul style="list-style-type: none"> 柵をともなうギャランジアップ機能 床材 適度な弾力性 ベッド柵 柵の仕様 (マットレスから柵上端までの適切な高さ/はずれにくい) 	<ul style="list-style-type: none"> 障床センサー 下を壁に設置する/ベッド柵の間を塞ぐ 		
10	707	NTT	ベッド	23:30	B-I	<ul style="list-style-type: none"> ベッド幅を低くする 両側柵 (4点柵を除く) 	<ul style="list-style-type: none"> 電動ベッドのコントロールローラーは介助者のみ使用できるようにする ベッド柵 3点柵 (*布団) (*抑制) 4点柵 柵と柵の隙間解消 フットボード間の隙間解消 体位保持クッション 	<ul style="list-style-type: none"> 柵と柵の隙間解消 柵とヘッドボード/フットボード間の隙間解消 体位保持クッション 	<ul style="list-style-type: none"> 柵をともなうギャランジアップ機能 床材 適度な弾力性 ベッド柵 柵の仕様 (マットレスから柵上端までの適切な高さ/はずれにくい) 	<ul style="list-style-type: none"> 抑制帯をベッド下にしっかりと固定 		

事例一対応表【ベッドからの転落】3/3
表内コメントは表裏記の対策は実施していた対策、色を塗ってある対策はその事例への考えられる物的対策、青字の対策はその事例への今後の対策として看護師があげた対策を表す。

No.	ケースNo.	病棟名	発生場所		発生時間	患者タイプ	タイプA-1	タイプB-1	タイプB-11	タイプC-1	タイプC-11	その他対策	基本設定	看護師が調査票に記入した対策	
			発生場所	発生時間										物的対策	人的対策
11	708	NTT	ベッドサイド	11:40	B-1	<ul style="list-style-type: none"> ベッド下柵 (4点柵を除く) 	<ul style="list-style-type: none"> 電動ベッドのコントローラーは介助者のみ使用できるようにする ベッド下柵 (3点柵) ベッド (※布団) ベッド (※抑制) 	<ul style="list-style-type: none"> ベッド下柵 (4点柵) 柵と柵の隙間解消 柵とベッドボード/フットボード間の隙間解消 体位保持クッション 	<ul style="list-style-type: none"> 離床センサー ベッド配置 Nsセンサーの近くとする ベッド下柵 (※3点柵) ベッド (※4点柵) ベッド (※抑制) 	<ul style="list-style-type: none"> 柵と柵の隙間解消 柵とベッドボード/フットボード間の隙間解消 	<ul style="list-style-type: none"> 柵と柵の隙間解消 柵とベッドボード/フットボード間の隙間解消 	<ul style="list-style-type: none"> 柵と柵の隙間解消 柵とベッドボード/フットボード間の隙間解消 	<ul style="list-style-type: none"> 柵の仕様 (ベッドレールの適切な高さ/はずれにくい) 柵の仕様が (ベッドレールの適切な高さ/はずれにくい) 柵の仕様 (ベッドレールの適切な高さ/はずれにくい) 	<ul style="list-style-type: none"> 抑制帯をベッド下にしっかり固定し、ベッドが降りないよう固定 	<ul style="list-style-type: none"> 抑制帯をベッド下にしっかり固定し、ベッドが降りないよう固定
12	710	NTT	トイレ	18:50	C-1	<ul style="list-style-type: none"> ベッド下柵 (4点柵を除く) 同側柵 	<ul style="list-style-type: none"> 電動ベッドのコントローラーは介助者のみ使用できるようにする ベッド下柵 (3点柵) ベッド (※布団) ベッド (※抑制) 	<ul style="list-style-type: none"> ベッド下柵 (4点柵) 柵と柵の隙間解消 柵とベッドボード/フットボード間の隙間解消 体位保持クッション 	<ul style="list-style-type: none"> 離床センサー ベッド配置 Nsセンサーの近くとする ベッド下柵 (※3点柵) ベッド (※4点柵) ベッド (※抑制) 	<ul style="list-style-type: none"> 柵と柵の隙間解消 柵とベッドボード/フットボード間の隙間解消 	<ul style="list-style-type: none"> 柵と柵の隙間解消 柵とベッドボード/フットボード間の隙間解消 	<ul style="list-style-type: none"> 柵の仕様 (ベッドレールの適切な高さ/はずれにくい) 柵の仕様が (ベッドレールの適切な高さ/はずれにくい) 柵の仕様 (ベッドレールの適切な高さ/はずれにくい) 	<ul style="list-style-type: none"> 抑制帯をベッド下にしっかり固定し、ベッドが降りないよう固定 	<ul style="list-style-type: none"> 抑制帯をベッド下にしっかり固定し、ベッドが降りないよう固定 	
13	711	NTT	トイレ	1:45	C-1	<ul style="list-style-type: none"> 同側柵 (4点柵を除く) 	<ul style="list-style-type: none"> 電動ベッドのコントローラーは介助者のみ使用できるようにする ベッド下柵 (3点柵) ベッド (※布団) ベッド (※抑制) 	<ul style="list-style-type: none"> ベッド下柵 (4点柵) 柵と柵の隙間解消 柵とベッドボード/フットボード間の隙間解消 体位保持クッション 	<ul style="list-style-type: none"> 離床センサー ベッド配置 Nsセンサーの近くとする ベッド下柵 (※3点柵) ベッド (※4点柵) ベッド (※抑制) 	<ul style="list-style-type: none"> 柵と柵の隙間解消 柵とベッドボード/フットボード間の隙間解消 	<ul style="list-style-type: none"> 柵と柵の隙間解消 柵とベッドボード/フットボード間の隙間解消 	<ul style="list-style-type: none"> 柵の仕様 (ベッドレールの適切な高さ/はずれにくい) 柵の仕様が (ベッドレールの適切な高さ/はずれにくい) 柵の仕様 (ベッドレールの適切な高さ/はずれにくい) 	<ul style="list-style-type: none"> 抑制帯をベッド下にしっかり固定し、ベッドが降りないよう固定 	<ul style="list-style-type: none"> 抑制帯をベッド下にしっかり固定し、ベッドが降りないよう固定 	

事例一対策一覧表【ベッドまわりでの転倒】2/4
表内エピソード表の対策は実施していた対策、色を塗ってある対策はその事例への今後の対策として看護師があげた対策を表す。

No.	病室名	発生場所	発生時間	患者のタイプ	タイプ A-I	タイプ A-II	タイプ B-I	タイプ B-II	タイプ C	その他対策	基本設定	看護師が調査票に記入した対策
5	306 武蔵野	ベッドサイド	17:15	B-II	<ul style="list-style-type: none"> 移動用具の選択と性能 (床材との相性含む) (車いす・歩行器) 押しやすい位置・形状のNsコーン 自立支援のための環境整備 介助パー 	<ul style="list-style-type: none"> 移動用具の選択と性能 (床材との相性含む) (車いす・歩行器) 押しやすい位置・形状のNsコーン 自立支援のための環境整備 介助パー 	<ul style="list-style-type: none"> ベッド配置・Nsコーンの近くとする 移動補助器具を使用してADL自立の操作に慣れさせる場合、ベッドサイドに設置しない 自立支援のための環境整備 介助パー 	<ul style="list-style-type: none"> ベッド配置・Nsコーンの近くとする 移動補助器具を使用してADL自立の操作に慣れさせる場合、ベッドサイドに設置しない 自立支援のための環境整備 介助パー 	<ul style="list-style-type: none"> 装着物挿入の再検討 (装着できない場合) 装着物の固定位置、方法、チューブ類のゆとり ベッド配置・Nsコーンの近くとする 自立お上り介助支援のための環境整備 自立可能で立位訓練中または立位パランスが不安定 介助パー 	<ul style="list-style-type: none"> 患者の状態に適したベッド配置・歩行器と適切なスーとつらさの確保 患者の歩行能力 照明・周辺環境が把握可能 履きやすい、歩きやすい 	<ul style="list-style-type: none"> ベッド配置をNsコーンの近くとする 履きやすい 	
6	207 武蔵野	ベッドサイド	0:00	B-I	<ul style="list-style-type: none"> 移動用具の選択と性能 (床材との相性含む) (車いす・歩行器) 押しやすい位置・形状のNsコーン 自立支援のための環境整備 介助パー 	<ul style="list-style-type: none"> 移動用具の選択と性能 (床材との相性含む) (車いす・歩行器) 押しやすい位置・形状のNsコーン 自立支援のための環境整備 介助パー 	<ul style="list-style-type: none"> ベッド配置・Nsコーンの近くとする 移動補助器具を使用してADL自立の操作に慣れさせる場合、ベッドサイドに設置しない 自立支援のための環境整備 介助パー 	<ul style="list-style-type: none"> ベッド配置・Nsコーンの近くとする 移動補助器具を使用してADL自立の操作に慣れさせる場合、ベッドサイドに設置しない 自立支援のための環境整備 介助パー 	<ul style="list-style-type: none"> 装着物挿入の再検討 (装着できない場合) 装着物の固定位置、方法、チューブ類のゆとり ベッド配置・Nsコーンの近くとする 自立お上り介助支援のための環境整備 自立可能で立位訓練中または立位パランスが不安定 介助パー 	<ul style="list-style-type: none"> 患者の状態に適したベッド配置・歩行器と適切なスーとつらさの確保 患者の歩行能力 照明・周辺環境が把握可能 履きやすい、歩きやすい 	<ul style="list-style-type: none"> ベッド配置をNsコーンの近くとする 履きやすい 	
7	206 武蔵野	ベッドサイド	17:05	B-II	<ul style="list-style-type: none"> 移動用具の選択と性能 (床材との相性含む) (車いす・歩行器) 押しやすい位置・形状のNsコーン 自立支援のための環境整備 介助パー 	<ul style="list-style-type: none"> 移動用具の選択と性能 (床材との相性含む) (車いす・歩行器) 押しやすい位置・形状のNsコーン 自立支援のための環境整備 介助パー 	<ul style="list-style-type: none"> ベッド配置・Nsコーンの近くとする 移動補助器具を使用してADL自立の操作に慣れさせる場合、ベッドサイドに設置しない 自立支援のための環境整備 介助パー 	<ul style="list-style-type: none"> ベッド配置・Nsコーンの近くとする 移動補助器具を使用してADL自立の操作に慣れさせる場合、ベッドサイドに設置しない 自立支援のための環境整備 介助パー 	<ul style="list-style-type: none"> 装着物挿入の再検討 (装着できない場合) 装着物の固定位置、方法、チューブ類のゆとり ベッド配置・Nsコーンの近くとする 自立お上り介助支援のための環境整備 自立可能で立位訓練中または立位パランスが不安定 介助パー 	<ul style="list-style-type: none"> 患者の状態に適したベッド配置・歩行器と適切なスーとつらさの確保 患者の歩行能力 照明・周辺環境が把握可能 履きやすい、歩きやすい 	<ul style="list-style-type: none"> ベッド配置をNsコーンの近くとする 履きやすい 	
8	612 NIT	ベッドサイド	12:30	B-I	<ul style="list-style-type: none"> 移動用具の選択と性能 (床材との相性含む) (車いす・歩行器) 押しやすい位置・形状のNsコーン 自立支援のための環境整備 介助パー 	<ul style="list-style-type: none"> 移動用具の選択と性能 (床材との相性含む) (車いす・歩行器) 押しやすい位置・形状のNsコーン 自立支援のための環境整備 介助パー 	<ul style="list-style-type: none"> ベッド配置・Nsコーンの近くとする 移動補助器具を使用してADL自立の操作に慣れさせる場合、ベッドサイドに設置しない 自立支援のための環境整備 介助パー 	<ul style="list-style-type: none"> ベッド配置・Nsコーンの近くとする 移動補助器具を使用してADL自立の操作に慣れさせる場合、ベッドサイドに設置しない 自立支援のための環境整備 介助パー 	<ul style="list-style-type: none"> 装着物挿入の再検討 (装着できない場合) 装着物の固定位置、方法、チューブ類のゆとり ベッド配置・Nsコーンの近くとする 自立お上り介助支援のための環境整備 自立可能で立位訓練中または立位パランスが不安定 介助パー 	<ul style="list-style-type: none"> 患者の状態に適したベッド配置・歩行器と適切なスーとつらさの確保 患者の歩行能力 照明・周辺環境が把握可能 履きやすい、歩きやすい 	<ul style="list-style-type: none"> ベッド配置をNsコーンの近くとする 履きやすい 	

事例一対策一覧表【ベッドまわりでの転倒】4/4
表内エピソードの対策は実施していた対策、色を塗ってある対策はその事例への考えられる物的対策、青字の対策はその事例への今後の対策として看護師があげた対策を表す。

No.	ケースNo.	病棟名	発生場所	発生時間	患者タイプ	タイプA-1	タイプA-11	タイプB-1	タイプB-11	タイプC	その他対策	基本設定	看護師が調査集に記入した対策	
13	204	西風野	ベッドサイド 報告	5:10	B-II	<ul style="list-style-type: none"> 移動用具の選択と性能 (床材との相性含む) 押しやすい位置・形状のNsコーン 自立支援のための環境整備 介助バー 	<ul style="list-style-type: none"> 移動用具の選択と性能 (床材との相性含む) 押しやすい位置・形状のNsコーン 自立支援のための環境整備 介助バー 	<ul style="list-style-type: none"> ベッド配置・Nsコーンの近くとする 移動補助器具を使用してADL自立の場合同様、患者一人ですらこれらの操作に危険が予測される場合、ベッドサイドに放置しない 自立支援のための環境整備 介助バー 	<ul style="list-style-type: none"> ベッド配置・Nsコーンの近くとする 移動補助器具を使用してADL自立の場合同様、患者一人ですらこれらの操作に危険が予測される場合、ベッドサイドに放置しない 自立支援のための環境整備 介助バー 	<ul style="list-style-type: none"> 移動補助器具の確保 点滅ランプを設置する ベッドを低くする 	<ul style="list-style-type: none"> 移動補助器具の確保 点滅ランプを設置する ベッドを低くする 	<ul style="list-style-type: none"> 移動補助器具の確保 点滅ランプを設置する ベッドを低くする 	<ul style="list-style-type: none"> 患者の状態に適したベッド配置 適切なセンサーとセンサー間の確保 適切なセンサーとセンサー間の確保 適切なセンサーとセンサー間の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ベッドまわりの環境整備 センサーの設置 センサーの設置 センサーの設置
14	205	西風野	ベッドサイド 不明	6:00	B-II	<ul style="list-style-type: none"> 移動用具の選択と性能 (床材との相性含む) 押しやすい位置・形状のNsコーン 自立支援のための環境整備 介助バー 	<ul style="list-style-type: none"> 移動用具の選択と性能 (床材との相性含む) 押しやすい位置・形状のNsコーン 自立支援のための環境整備 介助バー 	<ul style="list-style-type: none"> ベッド配置・Nsコーンの近くとする 移動補助器具を使用してADL自立の場合同様、患者一人ですらこれらの操作に危険が予測される場合、ベッドサイドに放置しない 自立支援のための環境整備 介助バー 	<ul style="list-style-type: none"> ベッド配置・Nsコーンの近くとする 移動補助器具を使用してADL自立の場合同様、患者一人ですらこれらの操作に危険が予測される場合、ベッドサイドに放置しない 自立支援のための環境整備 介助バー 	<ul style="list-style-type: none"> 移動補助器具の確保 点滅ランプを設置する ベッドを低くする 	<ul style="list-style-type: none"> 移動補助器具の確保 点滅ランプを設置する ベッドを低くする 	<ul style="list-style-type: none"> 患者の状態に適したベッド配置 適切なセンサーとセンサー間の確保 適切なセンサーとセンサー間の確保 適切なセンサーとセンサー間の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ベッドまわりの環境整備 センサーの設置 センサーの設置 センサーの設置 	
15	301	西風野	ベッドサイド 不明	4:50	B-II	<ul style="list-style-type: none"> 移動用具の選択と性能 (床材との相性含む) 押しやすい位置・形状のNsコーン 自立支援のための環境整備 介助バー 	<ul style="list-style-type: none"> 移動用具の選択と性能 (床材との相性含む) 押しやすい位置・形状のNsコーン 自立支援のための環境整備 介助バー 	<ul style="list-style-type: none"> ベッド配置・Nsコーンの近くとする 移動補助器具を使用してADL自立の場合同様、患者一人ですらこれらの操作に危険が予測される場合、ベッドサイドに放置しない 自立支援のための環境整備 介助バー 	<ul style="list-style-type: none"> ベッド配置・Nsコーンの近くとする 移動補助器具を使用してADL自立の場合同様、患者一人ですらこれらの操作に危険が予測される場合、ベッドサイドに放置しない 自立支援のための環境整備 介助バー 	<ul style="list-style-type: none"> 移動補助器具の確保 点滅ランプを設置する ベッドを低くする 	<ul style="list-style-type: none"> 移動補助器具の確保 点滅ランプを設置する ベッドを低くする 	<ul style="list-style-type: none"> 患者の状態に適したベッド配置 適切なセンサーとセンサー間の確保 適切なセンサーとセンサー間の確保 適切なセンサーとセンサー間の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ベッドまわりの環境整備 センサーの設置 センサーの設置 センサーの設置 	

表 分析患者数

		分析患者数
A病院	12月	351
	1月	438
小計		789
B病院	12月	434
	1月	553
小計		987
合計		1,776

表 病棟別分析対象患者数

		12月 割合	1月 割合	合計 割合
A病院	全科病棟	5.4%	5.9%	5.7%
	脳外科・耳鼻科・神経内科病棟	12.5%	11.2%	11.8%
	呼吸器内科・内分泌代謝病棟	12.3%	10.5%	11.3%
	CCU病棟（循環器内科・心臓外科病棟）	1.4%	1.1%	1.3%
	HCU病棟	6.8%	7.5%	7.2%
	ICU病棟（救命救急科・脳外科他病棟）	2.3%	1.4%	1.8%
	小児科・消化器内科・感染症病棟	3.4%	3.4%	3.4%
	小児全科・眼科病棟	1.7%	3.0%	2.4%
	泌尿器科・婦人科・外科・形成病棟	14.0%	10.0%	11.8%
	消化器内科・腎臓内科病棟	13.7%	11.0%	12.2%
	循環器内科・心臓外科病棟	6.6%	6.8%	6.7%
	消化器内科・血液内科病棟		9.6%	5.3%
	外科病棟	10.5%	9.8%	10.1%
	整形外科病棟	9.4%	8.7%	9.0%
病院別患者数		351	438	789
B病院	緩和ケア病棟	3.7%	3.8%	3.7%
	神経内科・脳神経外科病棟	5.1%	8.5%	7.0%
	全科病棟	3.5%	5.6%	4.7%
	精神神経科病棟	9.4%	8.1%	8.7%
	心臓血管外科・循環器内科病棟	2.3%	3.1%	2.7%
	心臓血管外科・循環器内科・眼科・糖尿病棟	6.9%	7.4%	7.2%
	消化器内科病棟	10.4%	8.7%	9.4%
	外科・泌尿器科・耳鼻科	8.3%	7.6%	7.9%
	外科病棟	8.3%	8.7%	8.5%
	外科・皮膚科・呼吸器・肺外科・小児科病棟	9.0%	8.1%	8.5%
	産婦人科・泌尿器科病棟	8.8%	5.8%	7.1%
	整形外科病棟	7.1%	6.9%	7.0%
	血液内科・腎臓内科・ペインクリニック科病棟	6.0%	8.0%	7.1%
	呼吸器科・肺外科・ペインクリニック科病棟	8.5%	7.8%	8.1%
	CCU病棟	1.4%	1.1%	1.2%
ICU病棟	1.4%	0.9%	1.1%	
病院別患者数		434	553	987
全患者数		785	991	1776

表 分析患者の属性

		A病院			B病院		
		12月	1月	合計	12月	1月	合計
		%	%	%	%	%	%
年代	10-	0.6%	0.5%	0.5%	0.7%		0.3%
	20-	2.0%	2.5%	2.3%	4.2%	3.3%	3.7%
	30-	4.3%	3.7%	3.9%	9.0%	8.5%	8.7%
	40-	8.8%	7.5%	8.1%	8.8%	9.2%	9.0%
	50-	15.1%	14.8%	15.0%	18.8%	18.6%	18.7%
	60-	21.4%	24.0%	22.8%	20.9%	20.8%	20.8%
	70-	32.8%	30.8%	31.7%	24.4%	23.9%	24.1%
	80-	12.5%	13.5%	13.1%	11.4%	13.2%	12.4%
	90-	2.6%	2.7%	2.7%	1.9%	2.5%	2.2%
全体患者数		351	438	789	431	553	984
性別	男性	58.0%	54.8%	56.2%	52.0%	54.9%	53.6%
	女性	42.0%	45.2%	43.8%	48.0%	45.1%	46.4%
全体患者数		350	438	788	431	550	981

表 アセスメント別患者数（ベッドからの転落の場合）

		患者数	割合
転落タイプ	A	1,316	74.1
	B-I	150	8.4
	B-II	86	4.8
	C-I	90	5.1
	C-II	134	7.5
合計		1,776	100

表 アセスメント別患者数（ベッドまわりでの転倒の場合）

		患者数	割合
ベッド転倒タイプ	A-I	1,009	56.8
	A-II	249	14.0
	B-I	50	2.8
	B-II	136	7.7
	C-I	133	7.5
	対象外	199	11.2
合計		1,776	100.0

表 アセスメント別患者数（トイレまわりでの転倒の場合）

		患者数	割合
トイレ転倒タイプ	A-I	1,060	59.7
	A-II	22	1.2
	A-III	146	8.2
	B-I	56	3.2
	B-II	4	0.2
	B-III	111	6.3
	C-I	36	2.0
	C-II	5	0.3
	C-III	69	3.9
	対象外	267	15.0
合計		1,776	100.0

表 アセスメント別患者数（廊下での転倒の場合）

		患者数	割合
廊下転倒タイプ	A-I	942	53.0
	A-II	198	11.1
	B-I	38	2.1
	B-II	95	5.3
	C-I	31	1.7
	C-II	44	2.5
	対象外	428	24.1
合計		1776	100.0

表 上位 20%病棟、下位 20%病棟の病棟名リスト

	病棟名	ベッドからの転落	ベッドまわりの転倒	トイレまわりの転倒	廊下での転倒
上位20%病棟	A病院：小児全科・眼科病棟		○	○	○
	A病院：消化器内科・血液内科病棟	○			
	A病院：整形外科病棟	○			
	B病院：外科・泌尿器科・耳鼻科 v		○	○	○
	B病院：外科・皮膚科・呼吸器・肺外科・小児科病棟		○	○	○
	B病院：血液内科・腎臓内科・ペインクリニック病棟	○	○	○	○
	B病院：産婦人科・泌尿器科病棟	○	○	○	○
	B病院：心血管外科・循環器内科・眼科・糖尿病棟	○	○	○	○
	B病院：整形外科病棟	○			
下位20%病棟	A病院：CCU病棟（循環器内科・心臓外科病棟）	○	○	○	○
	A病院：HCU病棟	○	○	○	○
	A病院：ICU病棟（救命救急科・脳外科他病棟）	○	○	○	○
	B病院：CCU病棟	○	○	○	○
	B病院：ICU病棟	○	○	○	○
	B病院：緩和ケア病棟		○	○	○
	B病院：神経内科・脳神経外科病棟	○			

表 病棟タイプ別の患者タイプ構成（ベッドからの転落）

	A	B-I	B-II	C-I	C-II	患者数
上位20%病棟	90.8%	4.6%	2.3%	0.8%	1.5%	393
中位60%病棟	74.6%	9.1%	4.1%	6.4%	5.8%	1,210
下位20%病棟	32.4%	12.7%	15.6%	5.8%	33.5%	173
全体	74.1%	8.4%	4.8%	5.1%	7.5%	1,776

表 病棟タイプ別の患者タイプ構成（ベッドまわりでの転倒）

	A-I	A-II	B-I	B-II	C-I	対象外	患者数
上位20%病棟	77.3%	8.2%	3.6%	2.8%	3.8%	4.3%	392
中位60%病棟	56.2%	15.6%	2.7%	8.8%	8.0%	8.6%	1,243
下位20%病棟	5.0%	16.3%	1.4%	11.3%	12.8%	53.2%	141
全体	56.8%	14.0%	2.8%	7.7%	7.5%	11.2%	1,776

表 病棟タイプ別の患者タイプ構成（トイレまわりでの転倒）

	A-I	A-II	A-III	B-I	B-II	B-III	C-I	C-II	C-III	対象外	患者数
上位20%病棟	80.9%	0.3%	3.6%	4.3%	0.3%	1.5%	2.8%	0.0%	0.8%	5.6%	392
中位60%病棟	59.1%	1.7%	9.6%	3.0%	0.2%	7.2%	1.9%	0.4%	4.3%	12.5%	1,243
下位20%病棟	5.7%	0.0%	9.2%	1.4%	0.0%	10.6%	0.7%	0.0%	8.5%	63.8%	141
全体	59.7%	1.2%	8.2%	3.2%	0.2%	6.3%	2.0%	0.3%	3.9%	15.0%	1,776

表 病棟タイプ別の患者タイプ構成（廊下での転倒）

	A-I	A-II	B-I	B-II	C-I	C-II	対象外	患者数
上位20%病棟	77.0%	5.6%	3.1%	2.0%	2.8%	0.5%	8.9%	392
中位60%病棟	51.2%	13.4%	2.0%	6.1%	1.5%	2.8%	22.9%	1,243
下位20%病棟	2.1%	7.1%	0.7%	7.8%	0.7%	5.0%	76.6%	141
全体	53.0%	11.1%	2.1%	5.3%	1.7%	2.5%	24.1%	1,776

II. 研究成果の刊行に関する一覧表